

8.4 景観

8.4.1 調査事項

調査事項は、表 8.4-1 に示すとおりである。

表8.4-1 調査事項(東京2020大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・ 主要な景観の構成要素の改変の程度及びその改変による地域景観の特性の変化の程度 ・ 景観形成特別地区の景観阻害又は貢献の程度 ・ 代表的な眺望地点からの眺望の変化の程度 ・ 緑視率の変化の程度
予測条件の状況	・ 計画建築物の状況(配置、形状、高さ等) ・ 緑化計画
ミティゲーションの実施状況	・ 既存の大径木・樹林地に配慮し、極力樹木を保存する施設配置計画とする。 ・ 伐採エリア内の大径木については、優先順位を付けて移植を検討する。検討に当たっては、樹木診断等を行い、生育不良木や枯死木など健全度が低いものや、植生に影響を及ぼすおそれのある外来種を中心に伐採することとし、ケヤキやクスノキ等の樹勢や樹形の良いものなど移植に適した樹木を選定した上で、樹木の生育環境として適切な密度で移植を行うこととする。 ・ オープンな芝生広場を中心として、公園利用者の活動エリアは足元の抜けた高木疎林を基本とする。 ・ 計画地外周部については、既存高木を最大限保存するよう配慮し、必要に応じて補植を行いバッファー機能の向上を図るとともに、歩道状空地の整備のうち、主に北側から東側にかけては新植により高木を主体とした緑量のある植栽とし、周辺との緑のネットワーク形成に配慮する。 ・ ショーコート、クラブハウス・インドアコート、別棟及びデッキ棟については、最高高さを19mにするなど高さを抑えた計画とし、周辺への圧迫感を低減する。

8.4.2 調査地域

調査地域は、計画建築物を眺望することができる計画地及びその周辺とした。

8.4.3 調査手法

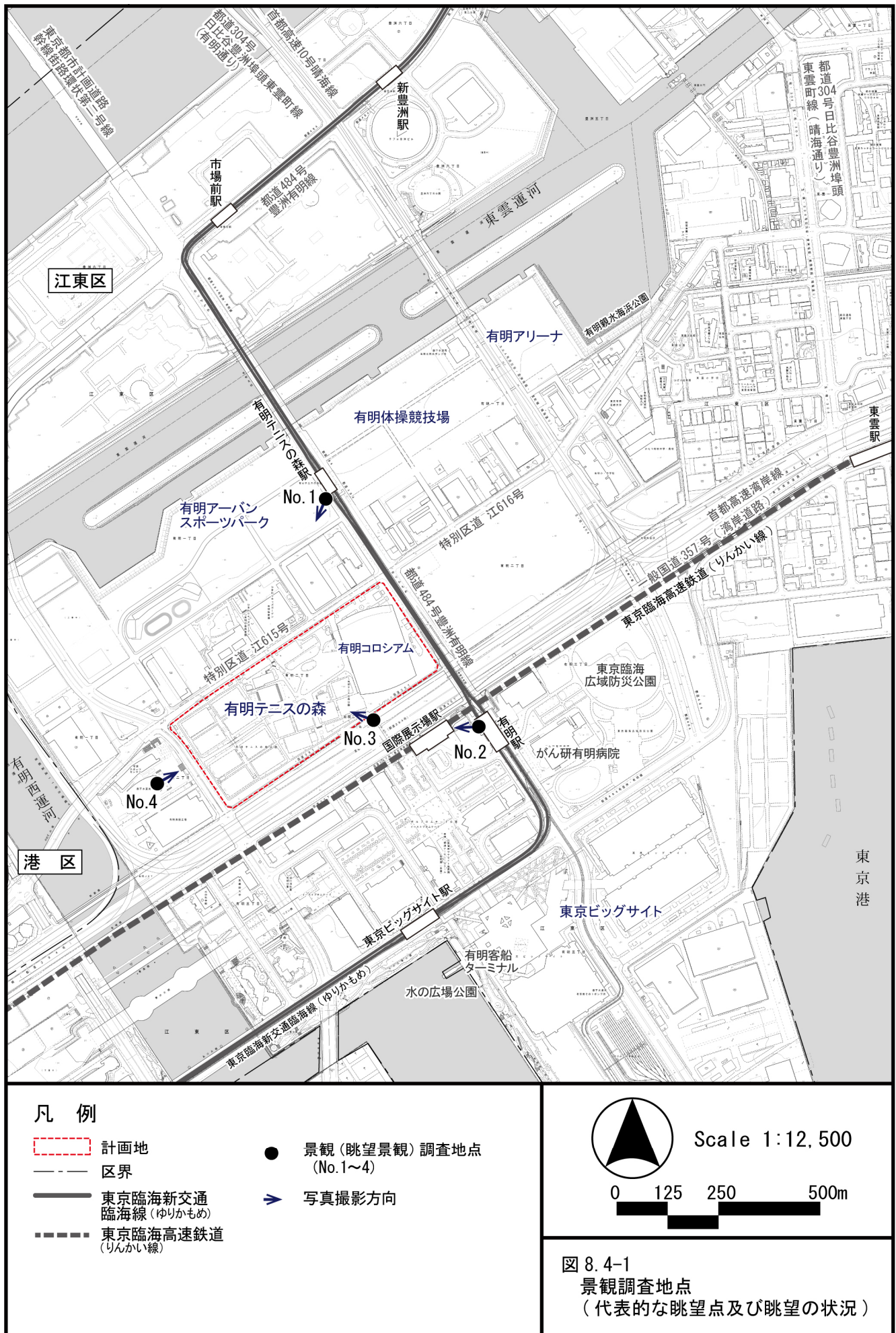
調査手法は、表 8.4-2(1) 及び(2)に示すとおりである。

表8.4-2(1) 調査手法(東京2020大会の開催後)

調査事項		主要な景観の構成要素の改変の程度及びその改変による地域景観の特性の変化の程度	景観形成特別地区の景観阻害又は貢献の程度
調査時点		東京2020大会の開催後(2021年度)とした。	
調査期間	予測した事項	施設竣工後の2021年10月とした。	
	予測条件の状況	施設竣工後の2021年10月とした。	
	ミティゲーションの実施状況	施設竣工後の2021年10月とした。	
調査地点	予測した事項	計画地及びその周辺とした。	
	予測条件の状況	計画地及びその周辺とした。	
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とした。	
調査手法	予測した事項	現地調査(写真撮影)及び評価書の予測結果と比較する方法とした。	
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影)及び竣工図の整理による方法とした。	
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影)及び竣工図の整理による方法とした。	

表 8.4-2(2) 調査手法(東京 2020 大会の開催後)

調査事項		代表的な眺望地点からの眺望の変化の程度	緑視率の変化の程度
調査時点		東京2020大会の開催後(2021年度)とした。	
調査期間	予測した事項	施設竣工後の2021年10月とした。	
	予測条件の状況	施設竣工後の2021年10月とした。	
	ミティゲーションの実施状況	施設竣工後の2021年10月とした。	
調査地点	予測した事項	予測地点と同様の4地点(図8.4-1に示す地点No.1~4)とする。	
	予測条件の状況	計画地及びその周辺とした。	
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とした。	
調査手法	予測した事項	現地調査(写真撮影)及び評価書の予測結果と比較する方法とした。	
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影)及び竣工図の整理による方法とした。	
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影)及び竣工図の整理による方法とした。	



8.4.4 調査結果

(1) 調査結果の内容

1) 予測した事項

ア. 主要な景観の構成要素の改変の程度及びその改変による地域景観の特性の変化の程度

計画地が位置する有明テニスの森公園は、大規模スポーツ・レクリエーション施設と地域の緩衝緑地の機能も併せもつ豊かな緑地で構成されており、有明地区の広域緑地ネットワークの機能を果たしている。有明テニスの森公園の広大な敷地には、テニスの国際試合等も行われる有明コロシアムをはじめ、49面のテニスコートがあり、テニスコートの周囲には多数の樹木が植栽されていた。また、有明コロシアムの西側には芝生広場が整備されていた。計画地周辺では、再開発等が進み、商業・業務、住宅など、都市的な土地利用の比重が高まっており、計画地の北側には集合住宅や倉庫・運輸関係施設等建築物が存在している。

本事業では、建築物としてショーコート及びクラブハウス・インドアコート等が整備されたが、最高高さを約16.3mにするなど高さを抑え、周辺への圧迫感を低減した。

また、本事業では、既存の大径木・樹林地に配慮し、極力樹木を保存する施設配置とした。公園の機能確保やテニスコートの規定寸法確保のため、やむを得ず施設計画と重複する伐採エリア内の大径木については、優先順位を付けて移植を検討した。検討に当たっては、樹木診断等を行い、生育不良木や枯死木など健全度が低いものや、植生に影響を及ぼすおそれのある外来種を中心に伐採し、ケヤキやクスノキ等の樹勢や樹形の良いものなど移植に適した樹木を選定した上で、樹木の生育環境として適切な密度で移植を行った。また、オープンな芝生広場を中心として、公園利用者の活動エリアは足元の抜けた高木疎林を基本とする。計画地外周部については、既存高木を最大限保存し、必要に応じて補植を行い、バッファ機能の向上を図ったとともに、歩道状空地の整備のうち、主に北側から東側にかけては新植により高木を主体とした緑量のある植栽とし、周辺との緑のネットワーク形成に配慮する計画である。

以上のことから、本事業の実施に伴う地域景観への著しい変化はないと考える。

イ. 景観形成特別地区の景観阻害又は貢献の程度

計画地が位置する有明テニスの森公園は、大規模スポーツ・レクリエーション施設と地域の緩衝緑地の機能も併せもつ豊かな緑地で構成されており、有明地区の広域緑地ネットワークの機能を果たしている。有明テニスの森公園の広大な敷地には、テニスの国際試合等も行われる有明コロシアムをはじめ、49面のテニスコートがあり、テニスコートの周囲には多数の樹木が植栽されていた。また、有明コロシアムの西側には芝生広場が整備されていた。計画地周辺では、再開発等が進み、商業・業務、住宅など、都市的な土地利用の比重が高まっており、計画地の北側には集合住宅や倉庫・運輸関係施設等建築物が存在している。

本事業では、建築物としてショーコート及びクラブハウス・インドアコート等が整備されたが、最高高さを約16.3mにするなど高さを抑え、周辺への圧迫感を低減している。

また、本事業では、既存の大径木・樹林地に配慮し、極力樹木を保存する施設配置とした。公園の機能確保やテニスコートの規定寸法確保のため、やむを得ず施設と重複する伐採エリア内の大径木については、優先順位を付けて移植を検討した。検討に当たっては、樹木診断等を行い、生育不良木や枯死木など健全度が低いものや、植生に影響を及ぼすおそれのある外来種を中心に伐採し、ケヤキやクスノキ等の樹勢や樹形の良いものなど移植に適した樹木を選定した上で、樹木の生育環境として適切な密度で移植を行った。また、オープンな

芝生広場を中心として、公園利用者の活動エリアは足元の抜けた高木疎林を基本とする。計画地外周部については、既存高木を最大限保存し、必要に応じて補植を行い、バッファー機能の向上を図ったとともに、歩道状空地の整備のうち、主に北側から東側にかけては新植により高木を主体とした緑量のある植栽とし、周辺との緑のネットワーク形成に配慮する計画である。

以上のことから、本事業の実施に伴う景観の変化の程度は小さいと考える。

ウ．代表的な眺望地点からの眺望の変化の程度

代表的な眺望地点からの眺望のフォローアップ調査結果は、写真 8.4-1～写真 8.4-4(下段の写真、p.72～75 参照)に示すとおりである。

計画地が位置する有明テニスの森公園は、大規模スポーツ・レクリエーション施設と地域の緩衝緑地の機能も併せもつ豊かな緑地で構成されており、有明地区の広域緑地ネットワークの機能を果たしている。有明テニスの森公園の広大な敷地には、テニスの国際試合等も行われる有明コロシアムをはじめ、49 面のテニスコートがあり、テニスコートの周囲には多数の樹木が植栽されていた。また、有明コロシアムの西側には芝生広場が整備されていた。計画地周辺では、再開発等が進み、商業・業務、住宅など、都市的な土地利用の比重が高まっており、計画地の北側には集合住宅や倉庫・運輸関係施設等建築物が存在している。

本事業では、建築物としてショーコート及びクラブハウス・インドアコート等が整備されるが、最高高さを約 16.3m にするなど高さを抑え、周辺への圧迫感を低減した。

また、本事業では、既存の大径木・樹林地に配慮し、極力樹木を保存する施設配置とした。公園の機能確保やテニスコートの規定寸法確保のため、やむを得ず施設計画と重複する伐採エリア内の大径木については、優先順位を付けて移植を検討した。検討に当たっては、樹木診断等を行い、生育不良木や枯死木など健全度が低いものや、植生に影響を及ぼすおそれのある外来種を中心に伐採し、ケヤキやクスノキ等の樹勢や樹形の良いものなど移植に適した樹木を選定した上で、樹木の生育環境として適切な密度で移植を行った。また、オープンな芝生広場を中心として、公園利用者の活動エリアは足元の抜けた高木疎林を基本とする。計画地外周部については、既存高木を最大限保存し、必要に応じて補植を行い、バッファー機能の向上を図ったとともに、歩道状空地の整備のうち、主に北側から東側にかけては新植により高木を主体とした緑量のある植栽とし、周辺との緑のネットワーク形成に配慮する計画である。

以上のことから、代表的な眺望地点において計画建築物は視認できるものの、その変化の程度は小さいと考える。

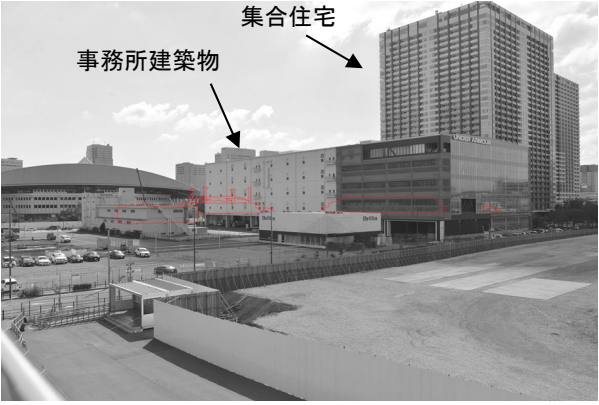
予測結果	
フォローアップ調査結果	
予測結果 : 計画建築物は、事務所建築物、倉庫・運輸関係施設、集合住宅等の既存建築物により視認できない。 フォローアップ調査結果 : 予測時に左手にあった倉庫・運輸関係施設が解体され、有明コロシウムが視認できるように変化したが、計画建築物は、事務所建築物、有明コロシウム等の既存建築物により視認できない。	

写真 8.4-1 眺望の状況 (No. 1 : 有明テニスの森駅)

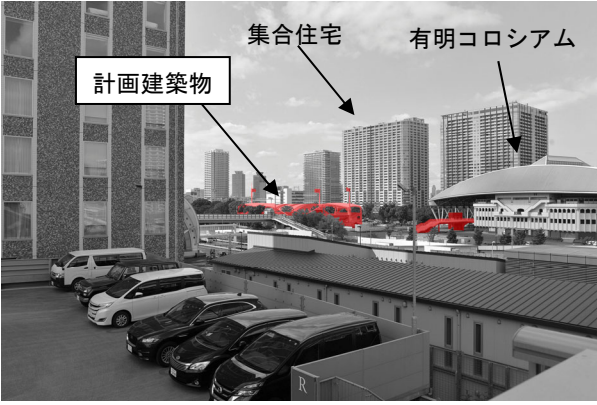
予測結果	
フロアアップ調査結果	
予測結果 : 正面に計画建築物が視認できる。現況よりも建築物の占める割合は増加する。 フロアアップ調査結果 : 正面に計画建築物が視認できる。ほぼ予測通りの位置に視認されている。	

写真 8.4-2 眺望の状況 (No. 2 : 有明駅)

予測結果	
フォローアップ調査結果	
予測結果 フォローアップ調査結果	:正面に計画建築物が視認できる。現況よりも建築物の占める割合は増加する。 :東京都港湾局による別事業において、新たに建設された歩道橋が正面に視認できる。歩道橋の奥にほぼ予測どおりの位置に計画建築物が視認できる。 

写真 8.4-3 眺望の状況 (No.3 : コロシムブリッジ)

予測結果	
フォローアップ調査結果	
予測結果 : 正面に計画建築物が視認できる。現況よりも建築物の占める割合は増加する。 フォローアップ調査結果 : 正面に計画建築物が視認できる。ほぼ予測通りの位置に視認されている。右側の試合用コートに視認される照明は、東京 2020 大会後も撤去せずに使用されることとなった。	

写真 8.4-4 眺望の状況 (No.4 : 有明スポーツセンター)

エ. 緑視率の変化の程度

代表的な眺望地点からの、大会開催後の緑視率の変化の程度は、表 8.4-3 及び写真 8.4-5～写真 8.4-7 に示すとおりである。

緑視率の変化の程度は、No.2 地点については、約 0.6 ポイントの減少、No.3 地点については、約 10.3 ポイントの減少、No.4 地点については約 3.9 ポイントの減少であった。

表 8.4-3 緑視率の変化の程度

調査地点	事前調査	予測結果		フォローアップ調査結果	
		緑視率	変化量	緑視率	変化量
No.2	約 2.4%	約 1.8%	約 0.6 ポイント減	約 1.8%	約 0.6 ポイント減
No.3	約 15.0%	約 14.2%	約 0.8 ポイント減	約 4.7%	約 10.3 ポイント減
No.4	約 28.2%	約 27.5%	約 0.7 ポイント減	約 24.3%	約 3.9 ポイント減

注) 地点番号は、図 8.4-1(p.69 参照)に対応する。

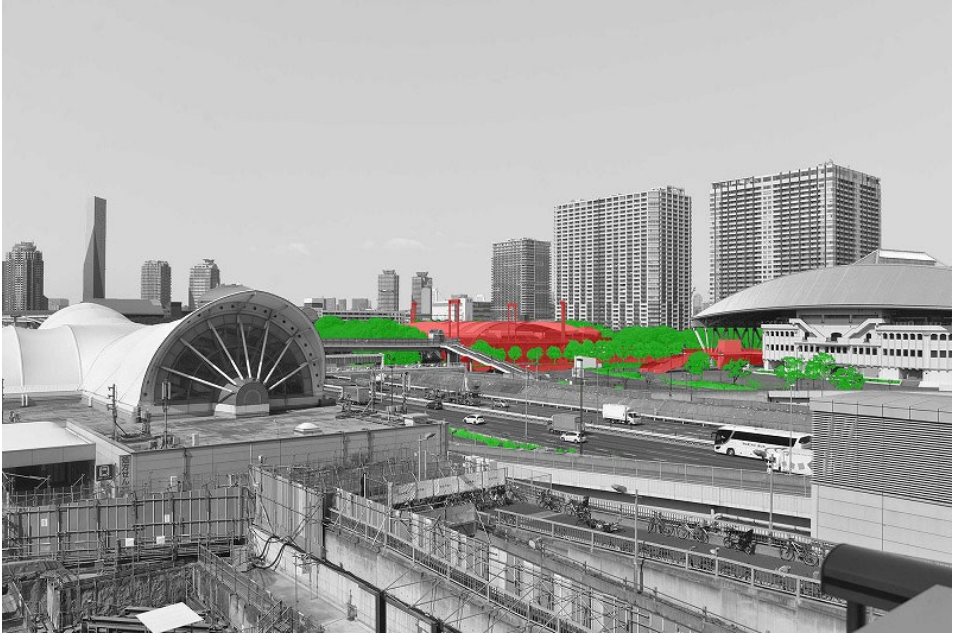
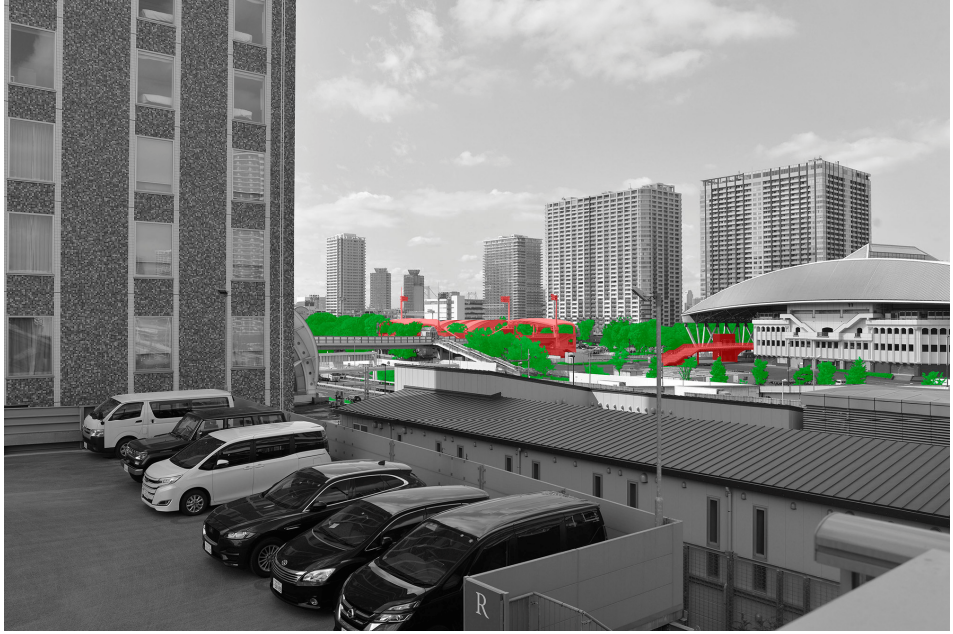
予測結果	
フォローアップ調査結果	
予測結果	正面に計画建築物が視認できる。現況よりも建築物の占める割合は増加するが、緑視率はほとんど変わらない。
フォローアップ調査結果	予測のとおり、正面に計画建築物が視認できる。緑視率は、現況と比較して約 0.6 ポイント減少、予測結果と比較してポイントの増減はなかった。調査結果は、予測結果と同程度であった。

写真 8.4-5 緑視率の状況 (No.2 : 有明駅)

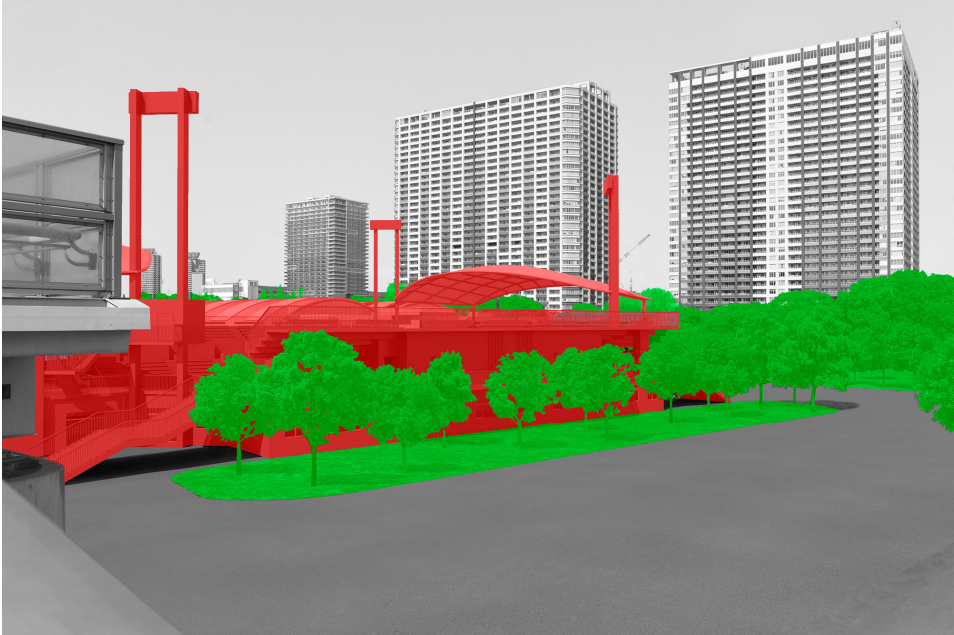
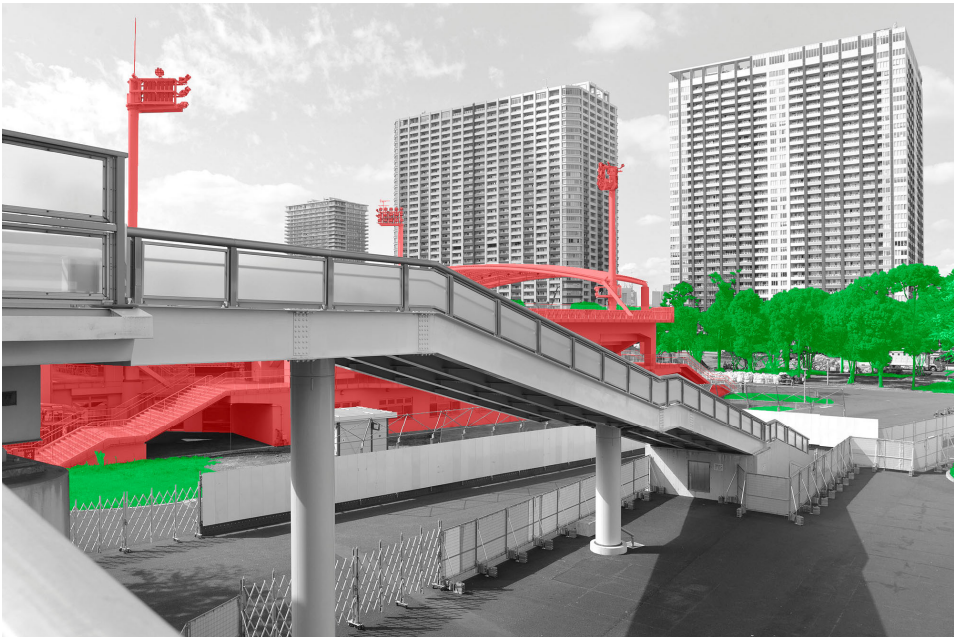
予測結果	
フォローアップ調査結果	
予測結果	正面に計画建築物が視認できる。現況よりも建築物の占める割合は増加するが、緑視率はほとんど変わらない。
フォローアップ調査結果	東京都港湾局による別事業において、新たに建設された歩道橋が正面に視認できる。歩道橋の奥にはほぼ予測どおりの位置に計画建築物が視認できる。緑視率は、現況と比較して約 10.3 ポイント減少、予測結果と比較して約 9.5 ポイント減少した。歩道橋の新設及び緑化は今後実施予定であることから、緑視率が減少したと考えられる。

写真 8.4-6 緑視率の状況 (No.3 : コロシムブリッジ)

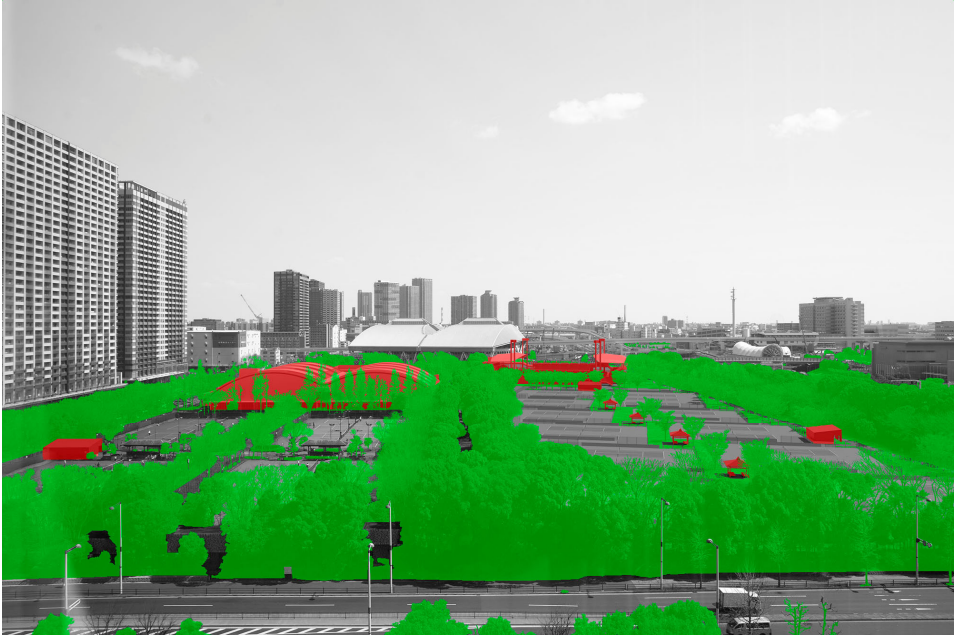
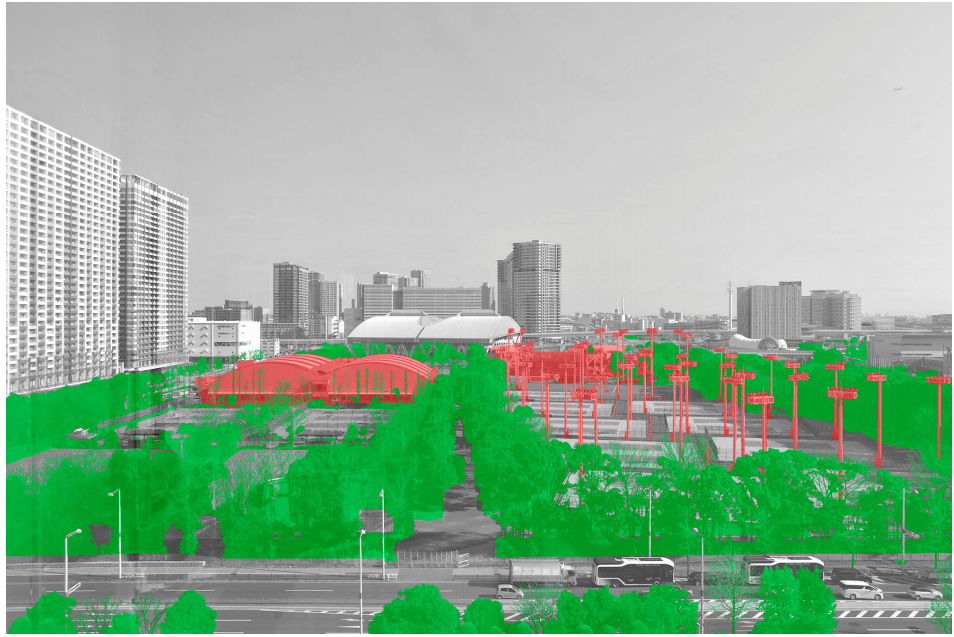
予測結果	
フォローアップ調査結果	
予測結果	正面に計画建築物が視認できる。現況よりも建築物の占める割合は増加するが、緑視率はほとんど変わらない。
フォローアップ調査結果	予測のとおり、正面に計画建築物が視認できる。緑視率は、現況と比較して約 3.9 ポイント減少、予測結果と比較して約 3.2 ポイント減少した。緑化は今後実施予定であることから、緑視率が減少したと考えられる。

写真 8.4-7 緑視率の状況 (No.4 : 有明スポーツセンター展望廊下)

2) 予測条件の状況

ア. 計画建築物の状況(配置、形状、高さ等)

計画建築物の状況(配置、形状、高さ等)は、「4. 有明テニスの森の計画の目的及び内容 4.2 内容 4.2.3 事業の基本計画 (1) 配置計画」(p.8 参照)に示したとおりである。

イ. 緑化計画

緑化計画は、「4. 有明テニスの森の計画の目的及び内容 4.2 内容 4.2.3 事業の基本計画 (7) 緑化計画」(p.16 参照)に示したとおりである。

3) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 8.4-4(1)～(3)に示すとおりである。なお、景観に関する問合せはなかった。

表 8.4-4(1) ミティゲーションの実施状況(東京 2020 大会の開催後)

ミティゲーション 実施状況	・既存の大径木・樹林地に配慮し、極力樹木を保存する施設配置計画とする。
事業実施前において、各テニスコート間、計画地南側、芝生広場等に植栽されていた既存の大径木・樹林地に配慮し、極力樹木を保存する施設配置とした。	
	
既存樹木（計画地南側）	
	
既存樹木（クラブハウス・インドアコート南側）	
	
既存樹木（テニスコート間）	
	
既存樹木（テニスコート周り）	

表 8.4-4(2) ミティゲーションの実施状況(東京 2020 大会の開催後)

ミティゲーション	・伐採エリア内の大径木については、優先順位を付けて移植を検討する。検討に当たっては、樹木診断等を行い、生育不良木や枯死木など健全度が低いものや、植生に影響を及ぼすおそれのある外来種を中心に伐採することとし、ケヤキやクスノキ等の樹勢や樹形の良いものなど移植に適した樹木を選定した上で、樹木の生育環境として適切な密度で移植を行うこととする。
実施状況	伐採エリア内の大径木について、平成 28 年 9 月に樹木調査を行い、場内にて移植保存する樹木を選定した。その他は、マテバシイやトウネズミモチ等の生育不良木、枯損木、外来種を中心に約 1,060 本を伐採した。うち 60 本は大会後工事にて伐採予定である。移植場所は、計画地南東の敷地境界及び芝生広場等とした。主な移植樹種は、ケヤキ、クスノキ、クロマツ、タギョウショウ、コナラ、ヒヨクヒバ、アキニレ、サクラ、サザンカ、マテバシイ、ヤブツバキ、ヤマモモ等であり、大径木は、ケヤキ、クスノキ、コナラ等約 40 本の移植を行った。 
芝生広場南側クスノキ移植状況 (2017 年移植時)	
ミティゲーション	・オープンな芝生広場を中心として、公園利用者の活動エリアは足元の抜けた高木疎林を基本とする。
実施状況	オープンな芝生広場を中心として、公園利用者の活動エリアは足元の抜けた高木疎林を基本とした。
ミティゲーション	・計画地外周部については、既存高木を最大限保存するよう配慮し、必要に応じて補植を行いバッファー機能の向上を図るとともに、歩道状空地の整備のうち、主に北側から東側にかけては新植により高木を主体とした緑量のある植栽とし、周辺との緑のネットワーク形成に配慮する。
実施状況	計画地外周部については、既存の大径木・樹林地に配慮し、樹木の保存に努めた。有明コロシアムの外周の植栽帯には、サツキツツジ、ヒラドツツジ、クルメツツジ、オオムラサキツツジ、計約 5,200 株、計画地南東側には、ドウダンツツジ及びクルメツツジ、計約 700 株を植栽した他、主に計画地南東側の歩道状空地周辺にはコブシ、トベラ、ウバメガシ等の高中木を約 60 本補植し、緑量のある植栽とする計画である。また、北側については歩道状空地と干渉しない高木群は最大限保存した。 
オオムラサキツツジ (有明コロシアムの外周)	

表 8.4-4(3) ミティゲーションの実施状況(東京 2020 大会の開催後)

ミティゲーション	・ショーコート、クラブハウス・インドアコート、別棟及びデッキ棟については、最高高さを19mにするなど高さを抑えた計画とし、周辺への圧迫感を低減する。
実施状況	ショーコート、クラブハウス・インドアコート、別棟及びデッキ棟については、最高高さを約 16.3m にするなど高さを抑え周辺への圧迫感を低減した。  クラブハウス・インドアコート  ショーコート

(2) 予測結果とフォローアップ調査結果との比較検討

1) 予測した事項

ア. 主要な景観の構成要素の改変の程度及びその改変による地域景観の特性の変化の程度

計画地が位置する有明テニスの森公園は、大規模スポーツ・レクリエーション施設と地域の緩衝緑地の機能も併せもつ豊かな緑地で構成されており、有明地区の広域緑地ネットワークの機能を果たしている。有明テニスの森公園の広大な敷地には、テニスの国際試合等も行われる有明コロシアムをはじめ、49面のテニスコートがあり、テニスコートの周囲には多数の樹木が植栽されていた。また、有明コロシアムの西側には芝生広場が整備されていた。計画地周辺では、再開発等が進み、商業・業務、住宅など、都市的な土地利用の比重が高まっており、計画地の北側には集合住宅や倉庫・運輸関係施設等建築物が存在している。

本事業では、建築物としてショーコート及びクラブハウス・インドアコート等が整備されたが、最高高さを約16.3mにするなど高さを抑え、周辺への圧迫感を低減した。

また、本事業では、既存の大径木・樹林地に配慮し、極力樹木を保存する施設配置とした。公園の機能確保やテニスコートの規定寸法確保のため、やむを得ず施設と重複する伐採エリア内の大径木については、優先順位を付けて移植を検討した。検討に当たっては、樹木診断等を行い、生育不良木や枯死木など健全度が低いものや、植生に影響を及ぼすおそれのある外来種を中心に伐採し、ケヤキやクスノキ等の樹勢や樹形の良いものなど移植に適した樹木を選定した上で、樹木の生育環境として適切な密度で移植を行った。また、オープンな芝生広場を中心として、公園利用者の活動エリアは足元の抜けた高木疎林を基本とする。計画地外周部については、既存高木を最大限保存し、必要に応じて補植を行いバッファー機能の向上を図ったとともに、歩道状空地の整備のうち、主に北側から東側にかけては新植により高木を主体とした緑量のある植栽とし、周辺との緑のネットワーク形成に配慮する計画である。

なお、芝生広場は、移植・伐採後に約7,000m²の張芝を行い、まとまった芝生広場を引き続き確保し、緑化空間としての機能は変わらないよう配慮した。

以上のことから、本事業の実施に伴う地域景観への著しい変化はないと考える。

よって、予測結果とフォローアップ調査結果は、概ね一致する。

イ. 景観形成特別地区の景観阻害又は貢献の程度

計画地が位置する有明テニスの森公園は、大規模スポーツ・レクリエーション施設と地域の緩衝緑地の機能も併せもつ豊かな緑地で構成されており、有明地区の広域緑地ネットワークの機能を果たしている。有明テニスの森公園の広大な敷地には、テニスの国際試合等も行われる有明コロシアムをはじめ、49面のテニスコートがあり、テニスコートの周囲には多数の樹木が植栽されていた。また、有明コロシアムの西側には芝生広場が整備されていた。計画地周辺では、再開発等が進み、商業・業務、住宅など、都市的な土地利用の比重が高まっており、計画地の北側には集合住宅や倉庫・運輸関係施設等建築物が存在している。

本事業では、建築物としてショーコート及びクラブハウス・インドアコート等が整備されたが、最高高さを約16.3mにするなど高さを抑え、周辺への圧迫感を低減した。

また、本事業では、既存の大径木・樹林地に配慮し、極力樹木を保存する施設配置とした。公園の機能確保やテニスコートの規定寸法確保のため、やむを得ず施設と重複する伐採エリア内の大径木については、優先順位を付けて移植を検討した。検討に当たっては、樹木診断等を行い、生育不良木や枯死木など健全度が低いものや、植生に影響を及ぼすおそれの

ある外来種を中心に伐採し、ケヤキやクスノキ等の樹勢や樹形の良いものなど移植に適した樹木を選定した上で、樹木の生育環境として適切な密度で移植を行った。また、オープンな芝生広場を中心として、公園利用者の活動エリアは足元の抜けた高木疎林を基本とする。計画地外周部については、既存高木を最大限保存し、必要に応じて補植を行い、バッファー機能の向上を図った。歩道状空地の整備のうち、主に北側から東側にかけては新植により高木を主体とした緑量のある植栽とし、周辺との緑のネットワーク形成に配慮する計画である。

なお、芝生広場は、移植・伐採後に約 7,000m²の張芝を行い、まとまった芝生広場を引き続き確保し、緑化空間としての機能は変わらないよう配慮した。

以上のことから、本事業の実施に伴う景観の変化の程度は小さいと考える。

よって、予測結果とフォローアップ調査結果は、概ね一致する。

ウ．代表的な眺望地点からの眺望の変化の程度

計画地が位置する有明テニスの森公園は、大規模スポーツ・レクリエーション施設と地域の緩衝緑地の機能も併せもつ豊かな緑地で構成されており、有明地区の広域緑地ネットワークの機能を果たしている。有明テニスの森公園の広大な敷地には、テニスの国際試合等も行われる有明コロシアムをはじめ、49面のテニスコートがあり、テニスコートの周囲には多数の樹木が植栽されていた。また、有明コロシアムの西側には芝生広場が整備されていた。計画地周辺では、再開発等が進み、商業・業務、住宅など、都市的な土地利用の比重が高まっており、計画地の北側には集合住宅や倉庫・運輸関係施設等建築物が存在している。

本事業では、建築物としてショーコート及びクラブハウス・インドアコート等が整備されたが、最高高さを約 16.3m にするなど高さを抑え、周辺への圧迫感を低減した。

また、本事業では、既存の大径木・樹林地に配慮し、極力樹木を保存する施設配置とした。公園の機能確保やテニスコートの規定寸法確保のため、やむを得ず施設と重複する伐採エリア内の大径木については、優先順位を付けて移植を検討した。検討に当たっては、樹木診断等を行い、生育不良木や枯死木など健全度が低いものや、植生に影響を及ぼすおそれのある外来種を中心に伐採し、ケヤキやクスノキ等の樹勢や樹形の良いものなど移植に適した樹木を選定した上で、樹木の生育環境として適切な密度で移植を行った。また、オープンな芝生広場を中心として、公園利用者の活動エリアは足元の抜けた高木疎林を基本とする。計画地外周部については、既存高木を最大限保存し、必要に応じて補植を行い、バッファー機能の向上を図った。歩道状空地の整備のうち、主に北側から東側にかけては新植により高木を主体とした緑量のある植栽とし、周辺との緑のネットワーク形成に配慮する計画である。

なお、芝生広場は、移植・伐採後に約 7,000m²の張芝を行うことで、まとまった芝生広場を引き続き確保し、緑化空間としての機能は変わらないよう配慮した。

以上のことから、本事業の実施に伴う景観の変化の程度は小さいと考える。

よって、予測結果とフォローアップ調査結果は、概ね一致する。

エ．緑視率の変化の程度

緑視率の変化の程度は、No.2 地点については、予測結果と同程度であった。No.3 地点については、予測結果より約 9.5 ポイントの減少、No.4 地点については、予測結果より約 3.2 ポイントの減少であった。これは、歩道橋の新設及び緑化を今後実施予定であるためと考えら

れる。

本事業では、既存の大径木・樹林地に配慮し、極力樹木を保存する施設配置とした。公園の機能確保やテニスコートの規定寸法確保のため、やむを得ず施設と重複する伐採エリア内の大径木については、優先順位を付けて移植を検討した。検討に当たっては、樹木診断等を行い、生育不良木や枯死木など健全度が低いものや、植生に影響を及ぼすおそれのある外来種を中心に伐採し、ケヤキやクスノキ等の樹勢や樹形の良いものなど移植に適した樹木を選定した上で、樹木の生育環境として適切な密度で移植を行った。また、オープンな芝生広場を中心として、公園利用者の活動エリアは足元の抜けた高木疎林を基本とする。計画地外周部については、既存高木を最大限保存し、必要に応じて補植を行い、バッファ機能の向上を図った。歩道状空地の整備のうち、主に北側から東側にかけては新植により高木を主体とした緑量のある植栽とし、周辺との緑のネットワーク形成に配慮する計画である。

なお、芝生広場は、移植・伐採後に約 7,000m²の張芝を行い、まとまった芝生広場を引き続き確保し、緑化空間としての機能は変わらないよう配慮した。

以上のことから、予測結果とフォローアップ調査結果は、概ね一致する。